

くまもと黒毛和牛「和牛」PR

PR大使の茂出木シェフが菊池市を訪問

JA熊本経済連が出荷するくまもと黒毛和牛「和牛」のPR大使に任命されている料理人の茂出木浩司さんが、菊池市宿泊助成事業の一環で「くまもと黒毛和牛「和牛」を使用したキャンペーンを実施している菊池市を訪れました。

菊池市は県内で「和牛」の出荷量が一番多いこともあり、茂出木さんは江頭実市長を表敬訪問。江頭市長は、阿蘇外輪山から湧き出る菊池深谷の水や自然の豊かさを語り、「菊池米」のおいしさや「菊池水田こぼろ」などの特産物も伝えました。茂出木さんは「ゴボウは牛肉との相性もいいので使ってみたい」と話しました。

「和牛」の生産者が多いJA菊池肉牛部会事務局の水上和臣係長は「飼料高騰などで畜産農家の現状は厳しい。首都圏でしっかりくまもと黒毛和牛のおいしさを伝えてもらいたい」と話しました。



「和牛」PR大使の茂出木シェフ(中央)の「ワーオー」の掛け声にポーズをとる江頭市長(左から2人目)とJA職員ら



江頭市長に語りかける茂出木シェフ

＊熊本経済連は昨年「くまもと黒毛和牛」の首都圏での販売を開始。経済連畜産販売課松岡大輔課長補佐は「茂出木シェフの『たいめいけん三代目』の店舗では、鉄板焼きやステーキ、ハンバーグなどに使用され評判がいい。これからもしっかり交流を深めPRしていきたい」と話しています。

生産者の思い伝えよう

菊池の花出荷最盛期を前に トップセールス 卸売市場10社と意見交換

花卉部会は三角組合長と共に3月2～3日、出荷最盛期を迎えるカスミソウ、トルコギキョウなど、菊池の花トップセールスを東京都内のホテルで行いました。取引市場10社を招き、花卉生産現場の状況を動画で伝えPR。大田市場にも出向き、品質向上に努める生産者の思いなどを伝えました。三角修組合長と花卉部会岩下哲也部会長、松本龍一副部会長、宮本佐登美花卉部会女性部長ら7人。熊本県、JA熊本経済連の事務所から4人が参加しました。

三角組合長が「日本で初めてカスミソウが作られた産地として、これからも責任を持って作ってきたい」とあいさつ。市場との意見交換も行いました。岩下部会長は「コロナ禍の影響で厳しい時期もあったが、部会員が一つとなって品質、日持ちを重視した栽培を続けた。生産現場の思いを市場に直接伝えることができよかった」と話しました。



大田市場で生産者の思いを伝える三角組合長(右)と部会役員



温泉施設が牛乳消費拡大を応援

菊池市泗水町の温泉施設が牛乳の消費拡大を応援しようと「亀の甲温泉」「とよみずの湯」「野の湯」の各施設が、らくのうマザーズのロングライフ商品「大阿蘇牛乳200ミリリットル」を640本購入。泗水酪農部会が360本を追加し、それぞれの施設で1000本を無料配布しました。泗水酪農部

会の右田辰徳副部会長は「酪農生産者の厳しい状況を聞きつけて、昨年に続き協力いただいた。ありがたく、元気な気持ちになれる」と笑顔を見せた。野の湯代表の曾我哲也さんは「泗水町は酪農が盛んで、知り合いにも酪農家がいる。少しでも応援できればと思う」と話しました。



亀の甲温泉代表の北田さん

右田副部会長

牛乳
3000本
入湯者に
配布!



古川副部会長

野の湯代表の曾我さん

「農事組合法人久米」の挑戦

スナップエンドウ 品質良好で出荷量伸ばす

管内でスナップエンドウの出荷最盛期を迎え、スナップエンドウ部会で収穫量を伸ばしているのが、菊池市泗水町の久米集落で設立した「農事組合法人久米」です。構成員16人が交代で収穫に汗を流しています。栽培面積18アールで、12月から5月上旬まで出荷します。

農事組合法人久米は2015年に設立し米、麦、大豆、飼料用米などを栽培。冬場の作物を



上村代表



模索し、ニンジン等の栽培も試みてきました。検討を重ね2022年度からスナップエンドウに挑戦。品質良好で収量を伸ばしています。上村雅一代表は「一年間の作業の平準化、販



収穫したスナップエンドウを手にする構成員

売額の確保、女性が作業しやすいものを考え、試作や検討会を重ねスナップエンドウにたどりついた。地域を守り耕作放棄地を作らないという目標を掲げ、これからも皆で協力していきたい」と笑顔を見せました。4月に出荷ピークとなり「1回の出荷目標130キロを達成できそうだ」ということです。(週13回出荷)